

アンケート自由意見・団体意見の概要

(1) アンケート自由意見

【障がい児】

- ・障がい児が入園できる保育園や幼稚園が少なく、差別されて悲しい。もっと受け入れ体制を整えて欲しい。
- ・延長保育や学童保育が利用出来ず困っている。障がい児と一緒に暮らすと仕事が出来ない。仕事がしたい。また、18時までではなくもっと長めにしたい。
- ・幼稚園や保育園の先生が障がいや発達障害について理解不足。もっと勉強して欲しい。
- ・栃木県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園の募集人数が少ない事。希望すれば入学出来る様にして欲しい。又この様な学校を増やすべきだと思う。栃木県は発達障がいの子供達の支援にもっと力を入れるべきだと思う。
- ・教育と福祉の連携が必要。また、中学校の特別支援学級の先生の数が少ない。
- ・市内に放課後等デイサービスなどの事業所が少ない。また、送迎が無い事業所へ通所するには送迎しなければならず、大変である。
- ・グループホームだけでなく、全体的に事業所が少ない。また、どこにどんな事業所があるのか分からない。

【障がい者】

- ・相談先がどこにあるのか分かりづらい、あるいは知らない。事業所がどのくらいあるのか、所在地等の情報を欲しい。
- ・グループホームや短期入所施設等の事業所が不足している。市外の事業所を利用したくても満員で利用しづらい。
- ・医療的ケアの対応が出来る事業所が市内にない。
- ・行政にも家族にも出来る事には限度がある。今一番の関心事は、親亡き後。考えても答えの出ない問題。
- ・デマンドバスが自力で乗降できる方のみであり使いづらい。また、行き先が市内のみであり、市外への外出に使えない。
- ・下野市内に障がい者の就労先が無い。また、就労継続支援事業所を利用しても多くは市外であり、送迎非対応だと通所に伴う移動の問題がある。
- ・身体障がい者に対するバリアフリーが進んでいない。もっと整備して欲しい。

(2) 障がい児者支援団体へのアンケート

障がい児者支援団体から活動状況や現状を把握するためにアンケート調査を実施しました。

【調査概要】

調査団体	身体障害者福祉会 おもちゃの図書館、 精神保健福祉家族会 すまいるの会 いいこみ わかばクラブ 栃木県自閉症協会県南地区自閉症児者いちごの会（親の会）	けやきサポーター 心身障害児父母の会 栃木県重症心身障害児（者）を守る会 とちぎ高次脳機能障害友の会 栃木県中途失聴・難聴者協会 (財)日本ダウン症協会栃木支部（つくしの会）
手 法	郵送による配布・郵送による回収	
回収状況	配布 13 団体、回収数	12 団体 回収率 92.3%
調査時期	平成 29 年 8 月	
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・団体活動について ・障がいのある方を取り巻く環境について ・障がいのある方の社会活動について ・自由意見 	

【結果の概要】

①団体の活動について

<課題・問題>

⑦回答から主な意見

- ・人材の確保
- ・活動場所の確保
- ・個人情報保護に配慮した対象者把握

①具体的な意見

- ・自発的な人材がなかなか現れない。
- ・活動資金が足りない。
- ・会員の高齢化や入会者が現れず、人材が足りなくなっていることから、役員の負担が大きくなる。
- ・会員数が年々減少して行くのに伴い、新規会員加入を促進したいが、個人情報等の関係で手帳所持者など対象者が把握できない。
- ・一般ボランティアの関わる機会がもてない。

<活動を行う上での行政に望む支援>

⑦回答からの主な意見

- ・活動場所の提供
- ・対象者の情報
- ・活動に係る情報の提供
- ・活動資金の助成

①具体的な意見

- ・広報紙への掲載や手帳等の発行の際に会にリーフレットの配布への協力。
- ・会場を借りる際の手続きの簡素化や日曜日に利用する場合の減免措置。
- ・他団体の情報提供。

②障がいがある方を取り巻く環境について

<ボランティア活動の充実について>

⑦回答及び①具体的な意見

- ・下野市は、障がいのある方やその家族を支援するボランティア活動が充実していないとの回答がほとんどであり、特に障がい者家族の支援が不十分である。

<地域住民の障がいに対する理解や差別解消は進んでいるか>

⑦回答及び①具体的な意見

- ・進んでいないと思う回答が6割程度であり、具体的意見として理解促進のため小、中からの教育、広報、啓発活動が必要、健常者と障がい者が同時に集う場所や機会が少ないため差別が発生するレベルに至らない。

<問題点・不安>

- ・親の高齢化や親なきあとの問題。
- ・災害時の避難や避難場所での生活への配慮。
- ・重症心身障害児については、社会の認知度が低いため対応が遅れている。
- ・義務教育が終了するとサポート体制が少なくなる。
- ・成人期は、地域の中で生活することが多くなるため問題も出てくるため、精神障害や知的障害の方が利用する施設の支援者にも学齢期と同様に支援し、地域との関わり方を教えてもらいたい。

<必要と思うこと>

- ・グループホームも必要であるが、支援者不足で生活が成り立たない人も出る不安がある。
- ・重度の対象児が家族の支援を受けられなくなった時、送迎の支援、グループホームなどでは24時間体制の支援者がいること。

- ・親なきあとの障がい者の生活の調査。
- ・ショートステイのための病院や施設を増やすこと。
- ・エレベーターの大型化や少しの段差でもなくすこと。
- ・市のサポートセンターも義務教育が終了しても、就職相談を合わせて相談できる体制がほしい。

③障がいのある方の社会活動について

<問題点・不安>

- ・移動手段の確保がスムーズに進まない。
- ・歩道の段差や建物の構造上の問題など、車椅子ばかりでなく、視覚障害者にとっても大きな問題である。
- ・精神障がい者の就労は中々長続きせず短期間で挫折するが多い。
- ・会員の高齢化や減少、活動の参加者も同じようで、今後その対策を考える必要がある。
- ・重症心身障害児は、社会に周知されにくいため活動の場もなく、自分では動けないため、親の負担が大きい。
- ・会員の高齢化に伴い交通手段の確保難しい。
- ・親なき後の事を考えると不安。
- ・地域活動の情報がわからない。
- ・マンパワー不足である。

<解決するために>

- ・障がい者と地域社会が双方の努力が必要と感じる。
- ・障がいをもっともっと身近にとらえる感覚を養いたい。
- ・子どもたちのために、市や県に要望をださなければと思っている。
- ・活動をするための仲間同士の送迎に対する保障、若しくは交通手段の充実。
- ・就労支援及び就労の場の確保。